

# 健康で長く働くことのできる職場を目指して 一人ひとりの健康へしっかりと目配りを



## 健康リスク把握のためにも “ただ受けるだけ”の健診にしない

創業以来磨き続けてきた鑄造技術で建設機械や産業機械の部品製作を手がける株式会社伊藤鑄造鉄工所。2016年に健康管理を重点業務とするCSRセンターを設立し、鑄物製品の加工を担うグループ会社の株式会社アイ・エム・エスとともに健康経営に取り組んでいます。取り組みの基盤は健診を手厚くフォローする「放っておかない活動」で、夏の暑い日に社員が倒れた過去の教訓を機に始まった活動です。「健診結果から高リスク者であることを把握し、配慮していれば防げたかもしれない事故。『社員あつての会社』という社長（現会長）の思いを受け、改めて日頃の健康管理を見直すことにしました」と、CSRセンターの立ち上げを任された川崎さんは当時を振り返ります。



## まるで社員全員のおかあさん 健康管理を担う専門部署を設置

社員の健康管理のために必要な知識やスキルを身につけるため、川崎さんは産業カウンセラーと衛生管理者の資格を取得。中小企業の総務部員ならではの社員全員の顔を知っているという強みをいかし、要精検者や保健指導対象者への呼びかけも根気強く行ないました。再検査を受けるまで追いかける川崎さんは「歩く健康管理」と呼ばれ、中には近づいてくる姿を見ただけで逃げ出す社員もいましたが、健康への気遣いの心を持って接し続けたことで近年の再検査受診率はほぼ100%に。要精検者数そのものも徐々に減少し、保健指導を受けたことで生活習慣を改善して10kgの減量に成功した事例など、着実に成果を積み重ねてきました。

## こころの健康も大切に 独自の健康調査を環境改善につなぐ

同社が最初に健康経営優良法人の認定を受けたのは2019年ですが、申請にあたって新たに追加した取り組みはなく、このことから健康管理への真摯な姿勢が伺えます。「もともとは保健師の勧めで申請しましたが、その後も継続して認定を受けることで自社の取り組みを再確認でき、新設された項目への対応も図れています」と川崎さん。認定制度を指標として活用しつつ独自の取り組みにも力を入れ、画一的なストレスチェックだけでは把握できないこころや身体の不調を早期発見するための健康調査を年2回実施し、分析に基づいた職場の環境改善や面談につなげるなどメンタルヘルスにも力を注いでいます。また、2024年に新社屋が完成し、広くなった社員食堂を活用してのヨガ教室やジムスペースの設置も好評で、運動機会の増進につながっています。

## 健康への気遣いは社員への思いやり

朝礼や行事の際に、社長自らが社員へ向けて健康の大切さを語りかける機会が多く、「社員は家族」との気持ちがこもった言葉だからこそ心に届いて全員の意識向上につながっていると感じます。中小企業ならではの距離の近さで、思いやりある健康経営を続けていきたいと話されていました。



株式会社アイ・エム・エス  
総務部 CSRセンター長

蛭田 幸代



総務部 CSRセンター  
健康管理グループ長

産業カウンセラー 川崎 佳子

## 株式会社伊藤鑄造鉄工所

代表取締役社長 伊藤 秀幸



- 設立 1946年2月
- 所在地  
茨城県那珂郡東海村松3129番地43  
TEL.029-306-0030
- 事業内容 鋳鉄鑄物製造業
- 従業員数 111名